
言葉の力

甘楽由希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言葉の力

【Nコード】

N1873M

【作者名】

甘樂由希

【あらすじ】

初めて文芸部に入った。でも何を書いたらいいか分からん！――
――そんな高校生が小説を完成させるまでの奮闘記です。

小説「しょうせつ」…文学の一形式。

「分かるかああー！！！」

電子辞書に写された画面をみて、俺はそう叫びたくなった。

高校に入学したばかりの俺、近藤^{こんどう} 有紀^{ゆうき}は、1回の見学のみで文芸部に入った。理由は人数が少なくてフレンドリーそうだったし、文学にも興味があったし、それと…少し気になる人がいたから。

がしかし、問題が一つ。

……俺は本が苦手だった。

文学に興味があるといっても、本を読むのが好きな訳じゃない。まともに読んだことがあるのは、夏休みに出される読書感想文の本ぐらい。たまに文庫本なんかを読もうとしても、半分くらいでギブアップするのがオチだ。

ソンナ訳だから、普段本を読んでない奴が、作文や小論文でもキツいの、小説なんか書けるわけなかった。

だが文芸部員としては当然、何か作品を書き上げなくてはならない。学園祭に展示されることになっている作品を。

……………どうすんだ、俺……。

HRが終わってから、俺はすぐに図書館に行った。

そして、「小説の書き方」とかいふ、文芸部の人以外は誰も読まなさそうな本を取ってきて、早速読むことにした。

が結果は当然、ほんの数ページで飽きた。というか、万年国語2の俺には理解できないことが多すぎた。日本語なのに。

その後同じような本を何冊も読んだが、結果は皆同じだった。

もうどうしていいかわからず、しまいには小説という言葉自体の意味を理解しようと辞書を引きはじめていた。(その発想がすでに不自然)

その時だった。

「何してるの？こんな所で」

その声の主は、俺と同じ学年の、唯一の女子文芸部員、

佐藤 優子さとう ゆうこだった。

「見れば分かるだろ」俺はそっけなく答える。

「……ああ、今度出す作品？」

「そう」

「部活さぼって何してんのかと思ってきたら・・・」
いや、それはこっちのセリフ。

中学から文芸入ってるお前とは違って、ものすごく切羽つまってんだから!!

「……大体お前こそ何でここにいんだよ。」

「あたし? 図書委員の会議が終わって、その帰り」

…なるほど。

ってそんな事はどーでもいいんだよ。

「ってか、それ明日提出なんでしょ?」

「……まあな」

「……何か白い紙しかないようだけど」

「ああ」(キッパリ)

自慢気に言うなよ、と優子は突っ込んだ。

「……もう! しょうがないわね」

優子は俺の隣に座った。

「ホラ! 紙貸しなさいよ!!」

「へ? お前…」戸惑う俺を無視して優子は言った。

「私も手伝うわよ!!」

「……しかしホントに何を書いたらいいのやら」

「そんなに難しく考えなくてもいいんじゃない?」

優子の言う通りかもしれない。

「はあ…でも俺には何の取り柄もないんだぜ…」

「……」

「頭悪いし、スポーツも出来ないし、特技もないし……」

「でも」

「？」

「今、こうして小説を書いているじゃない。それだけでも十分、立派よ」

……どうしよう、結構泣きそうだよ俺。

「小説っていうのは、もうほんとーに自分だけの世界なんだから……！」

「……自分、か」

……考えた事も無かった。

俺は運動も勉強も出来ない。ただ……

「……なんだか、書きたくなってきたかも」

「そうよ！楽しんで書くのがイチバン♪」

「全部お前のおかげだよ、サンキュ」

「どういたしまして♪」

「じゃ、早速書くわよ！……っってもう書いてるし」

「ふう……とりあえず、冒頭だけだけど」

『僕は勉強や運動、何をやってもダメな男です。

しかし何故こんな僕が小説を書いているのかというと、皆さんに僕らしさを伝えるために。

そして、僕に大切な事を教えてくれたあの人に、僕の想いを伝えるために。』

僕の恋物語は始まったばかり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1873m/>

言葉の力

2011年1月26日11時59分発行